

統計コラム

第15回 統計調査の数字から

新型コロナウイルスの感染拡大は、私たちの暮らしを一変させました。テレワーク、外出自粛、巣ごもり消費などの言葉に表されるように、私たちの行動が変わることにより経済関連の統計数値へもその影響が如実に現れてきました。

群馬県鉱工業指数では、令和2年5月には生産指数63.8（平成27年を100とした場合の指数）となり前月比も▲34.4%と大きく減少し、製造業の工場停止や生産調整の影響が関連する部品産業へも幅広く波及しました。

毎月勤労統計調査では、同じく令和2年5月には特に労働時間にその影響が現われており、事業所規模30人以上の事業所の総実労働時間は前年同月比▲11.8%減少し、所定外労働時間は前年同月比▲34.1%と大幅に減少し、働き方にも大きな変化をもたらしました。

さて、落ち込んだ数値はどのように回復していくのでしょうか。それは過去の統計数値の動きも参考にできるでしょう。群馬県鉱工業指数ではリーマンショック時には、落ち込む前と同水準に回復するのに13か月程度を要しています。今回はリーマンショック時よりも急激に低下しましたが、5月の落ち込みから3か月で落ち込む前の水準に戻り、回復は早いようにも思われますが、その後、一進一退の状況です。

統計数値はこのように状況を把握する大切なものですが、日本経済新聞のコラムによると、米国の経済学者トーマス・シェリングは「顔が見える命」と「統計上の命」について論じています。少女の命を救うには高額な手術しかないと知れば善意の寄付が集まるだろうが、病院の施設が老朽化して救えるはずの命が救えない危機が生じていると報道されても資金を提供する人はそれほど多くない。少女は「顔が見える命」、病院の老朽化で命の危険にさらされるのは「統計上の命」と呼び、無関心を是正する方法を模索したといいます。顔の見えない統計上の数値を実感することは難しいようです。

しかし、数字の羅列から実態を理解するために、どうすればより実感として理解することができるのか考える必要があるでしょう。模索を続けなければなりません。加えて、統計調査はその作成に協力をいただいている企業・事業所様や統計調査員の皆様の協力なくしてまとまるものではありません。特に、この新型コロナウイルス感染拡大の状況下においての統計調査は、最も状況を把握したいのに、最も調査が難しいというジレンマを抱えながらの調査となっています。今月も、群馬県の現状を把握する貴重な統計がまとまりました。このことにも思いを巡らせて、その分析、利用を進めていこうと考えています。

※統計数値は令和3年2月末現在のものです。